

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470400132		
法人名	有限会社 花しょうぶ苑		
事業所名	グループホーム 花しょうぶ苑		
所在地	三重県亀山市本町1丁目2番12号		
自己評価作成日	平成24年9月25日	評価結果市町提出日	平成24年12月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyouvoCd=2470400132-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成24年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、明るく地域と共に《和気あいあい》と過ごすことをモットーに利用者に関わっている。毎月来苑の介護相談員からは、「利用者や職員はいつ来ても明るく生き生きして笑い声が絶えず居心地が良い」との評価をいただいている。施設は幼稚園、小学校、高校が近くにある街中にあり、子供たちや生徒との交流も開設以来続いている。ご近所の方から野菜の作り方を教わったり、地域の高齢者の情報をいただき職員が訪問したりしており、子供から高齢者まで地域の人々が気軽に立ち寄り話合えるサロンの存在でありたいと願っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年にわたり市内の金融機関で活躍してきた代表取締役兼施設長は、定年後は第二の人生として何か地域に恩返ししたいとの厚い想いからホームヘルパーの経験を経て、市の中心街にデイサービス事業所、居宅介護支援事業所を併設した事業所である。常に地域に根ざした活動をモットーに『和気あいあい』の理念を掲げ、高齢者ケアに深い見識と豊富な経験を持ち、利用者や家族、職員にも全幅の信頼があるホーム長の下、お隣さんや近くの小学校・中学校との交流も多く、地域社会との繋がりを大切にしている。利用者の意向や能力を引出し、家庭的な雰囲気の中職員は何時も笑顔で優しく接し、全ての利用者の表情は明るく穏やかで、一人ひとりのペースで生き生きと安心して暮らしている様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が家族との関係を保ちながら地域と共に《和気あいあい》と過ごせることを理念としている。管理者や職員は利用者が明るく元気でゆったりと生活できるように日々のケアに取り組んでいる。	職員皆で考えた、地域と共に『和気あいあい』の理念を掲げ、「はい・すみません・おかげさまで・させていただきます・ありがとうございます」の5心を念頭に、笑顔と優しい言葉かけで接し、住み慣れた地域で自分らしい暮らしが出来る支援がされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方々から野菜の作り方を教わったり花の苗を頂いたり、採れたての野菜をおすそ分けしたりしている。また隣接の小学校の授業で高齢者の様子を話したり、子供たちが訪問してくれたりの交流が開設以来続いている。	代表は過去7年間も自治会長を務める等、地域に根ざした活動を最も大切にしている。地域の方を対象に介護予防体操の開催、恒例の亀山大市、100円市、雛飾りの展示、まちかど博物館(利用者の作品出品)等に参加し、地域とは積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はコミュニティーセンターの集まりに招かれたり出向いたりし、認知症ケアや介護予防の体操などの啓発に努めている。また地域の中学生の職業体験実習の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活の様子や現状を報告し、家族の思いや各々の立場からのアドバイス、地域からの情報などをいただき話し合い、日々のケアやサービスの向上に役立っている。	会議は2ヶ月毎に開催し、毎回多くの利用者と家族が参加している。会議では市の包括支援センターから0157や食中毒、熱中症のアドバイス、地域住民・家族や民生委員から活発な意見や助言が交わされケアの向上に活かされる等、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新手続きや相談、報告に市役所に行くことも多い。担当者が入居の相談に訪れたり、認知症ケアや介護予防の啓発の相談を受けることもある。	相談事や報告、情報交換等は定期的に市の地域包括支援センターに出向き連携をしている。又、中学生の体験学習の受入れ、介護相談員の訪問時に意見交換を行い常に連携されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等では拘束をしないケアを話しあっており、玄関も日中は鍵をかけていない。椅子に移乗し車椅子に座る時間を減らしたり、心地よく過ごしていただけるように取り組んでいる。	ヒヤリハットの検証を、身体拘束廃止委員会で皆で話し合い、研修会にも積極的に参加し職員は身体拘束についてよく理解されている。玄関は施錠していないし、身体拘束は一切していない。又、言葉掛にも気遣いし拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する資料を用い会議等で話合っている。また、身体的にはもちろんのこと言葉による暴力はないか職員同士で注意し合い日常的に話合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	少ない時間ではあるがく住み慣れた地域で、安心して生活が送れるようにとの思いで、会議の場で話合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に本人や家族と話す機会を何度も持ち、見学してもらい不安が少なくなるように努めている。また疑問点は納得いくように十分説明し契約や解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に意図的に話題を投げかけ要望などが引き出し易いようにしている。利用者は毎月訪問の介護相談員とも顔馴染みで何でも話し、要望などがあれば日々のケアに反映させている。	利用者や家族とは、何時でも何でも気軽に話し合える雰囲気心掛けています。訪問時(面会、諸行事の参加等)は勿論、運営推進会議の都度多数の利用者と家族が参加し、活発な意見が出されていて、ケアの向上に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の会話の中でも意見が言いやすいように心がけている。出された意見や要望などはできる限り反映させて、働く意欲やケアの質の向上につながるようにしている。	ホーム長は常にケアの場において、何時も自由に意見や要望・アイデアが聞き入れられている。ホーム長で判断出来ることは直ぐに活かされ、ハード面等重要な事項は代表と相談の上活かされており、お互いの信頼関係は厚い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与に過去半年の間の勤務態度や実績を反映させるとともに、年1回の給与水準の見直し等にも反映させ改定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修等には可能な限り交替で参加できるようにし、費用面での援助もしている。研修後は朝礼や会議で報告しフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会等が主催する研修会に参加しサービスの質の向上に努めている。また近隣のグループホームと意見交換を行うなど交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	デイサービス利用からグループホームに入居される方もあり、職員のことも良く知っており思いを伝えてもらいやすい雰囲気作りを心がけている。また家族と共に何度も施設を訪問してもらい安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や関係者から在宅時の様子や苦労話などを聞き本人や家族の思い、求めていることを踏まえたうえで今後の生活やケアについてよく話し合い家族との関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族に思いや現状を十分に聞き、困っていることなどには全職員で対応策を考えたり、地域包括支援センターに相談するなどしてケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を家族という思いの中で日頃から接している。共に泣いたり笑ったり、また昔の話などは利用者から教えてもらうことも多々あり、時には職員にねぎらいの言葉をかけてもらったりすることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には日頃の様子を詳しく伝えている。家族も聞いたことのない話があったりして、共に喜んだりびっくりしたりしている。外泊や外出時には双方が安心して過ごせるようにケアの仕方を説明し、家での様子も詳しく聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のまつりや行事、買い物などに出かけ、知人や昔の同僚に声をかけられることもある。気軽に施設に立ち寄ってもらい昔話に花を咲かせたり、家族と親戚の家を訪ねたり、行きつけの美容院に出かけたり今までの関係が続いている。	スーパー等での買い物、地域の祭りや行事には積極的に出かけ知り合いの方や同僚との出会い、併設のデイサービス利用者との交流、行きつけの美容院に向く等、出来るだけ馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特性や能力を活かし、読み手や取り手に別れ、競い合ったり譲り合ったりしながら百人一首を楽しむこともある。生活の中で役割分担ができており、職員は付かず離れずの立場で見守り必要に応じそれとなく話の輪の中に入ることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入所後も病院や施設を訪問しており、家族に近況を尋ねたり相談に来られることもある。また行事にお誘いしたりしてこれまでの関係が途切れないうちに心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話などから各々の思いや希望などを把握し、表出困難な場合には表情などから読み取るようにしている。家族には暮らしの情報や生活歴をシートに記入してもらい、それを手がかりにその人らしさを大切に接し方をしている。	日々の体調や表情を見ながら、日々の暮らしの中で利用者と一対一になる時間を持つように心掛け、さり気ない会話を交わす中で、又、家族からの情報(自宅での暮らしの様子等)を基に思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に今までの様子などを聞くと共に、家族にはセンター方式を利用したシートに生活歴や生活環境を記入してもらい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の生活のリズムを把握しているが、日によって心身の状態が変化することもあるので注意深く見守り、状態に応じた過ごし方をしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の希望、日々のケアを基に職員全員で意見交換などを行い、各々の思いに沿った介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い家族の思いも取り入れ必要に応じて介護計画を見直している。	日々のケアの実態から、毎月全職員と介護支援専門員で利用者毎に介護計画の確認とモニタリングを行い、家族の意見を取り入れながら利用者の状態に変化が生じた都度計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、連絡ノート、各種チェック表に日々の様子や本人の言葉などを記録し、職員間で情報の共有を行っている。また利用者が穏やかな日々が送れるように話し合いながら計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方に見える方などの買い物や受診の付き添いなどにその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化会館や地域の催し物に出かけたり、招待を受けたり地域との接点を持ちながら文化的に過ごせるように支援している。また民生委員や地域の方なども情報の交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は利用者も親しみ信頼しており、月2回の往診以外にも随時の往診や総合病院の紹介を受けられるようになっている。また緊急時は24時間指示を受けられる体制になっている。	以前は従来のかかりつけ医を希望される利用者もあったが、現状は家族の希望もあり全ての利用者が月2回の往診、緊急時を含め24時間対応が可能な協力医療機関がかかりつけ医となり、家族も安心できる医療支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスに看護職員がおり、協力医からアドバイスを受けている。看護職員は近くに住んでおり、夜間でも駆けつけ対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が何度も見舞い、主治医や家族、病院関係者などと治療経過や退院後のことを話し合い、できるだけ早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応方針を定め、事業所が対応できることなどを利用開始時から本人や家族に説明している。状態の変化があるごとに家族や協力医とよく話し合い可能な限り希望に添った支援ができるように、職員も事業所内外の看取り研修を受けて備えている。	契約時に『看取りに関する指針』を家族に説明し、利用者の心身の状態を見ながらその都度家族と話し合い、希望があれば同意を得たうえ、医師の協力のもと、看取りまでの支援をする方針である。職員も同じ思いである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設のデイサービスの看護職員や応急手当などの研修を受けた職員から応急手当の方法を教わり急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム三重県一斉防災訓練に消防署の協力を得て、ご近所の方にも参加してもらい、夜間も想定した避難訓練を行っている。また地震を感じた時や報道を聞き、その都度避難の仕方や経路の確認を行っている。	設備としてはスプリンクラー設置、調理器具はIHを使用している。本年も三重県地域密着型サービス協議会の県下一斉防災訓練に地元消防署と近所の方々の協力を得て参加し、通報、避難、消火訓練を行ったが訓練はこの1回となっている。	利用者と職員が昼夜を問わず安全に避難出来るように、現状の訓練と併せ、夜間を含め特に地震を想定し、災害発生時に事業所独自で職員が的確に初期動作が出来る訓練を定期的実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時などの配慮や言葉がけで利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないように心がけている。利用者は人生の先輩として、また親や身内と思い接するようにいつも話している。	利用者の尊厳を損ねることのないよう、相手の身になって、一人ひとりに合わせたケアに心掛けている。特に排泄時や入浴時の気づかい、言葉かけにも職員が責任感を持ち、誇りやプライバシーを損ねないように話すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	新聞や広告の写真を見ながらみんなと献立や外出先を考えたりしている。また意思表示が苦手な方には例を挙げて決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでみんなと話をしたり、居室で休んだり片付け物をしたり、その日の体調や希望に応じた過ごし方をしてもらっている。家族や知人が訪れ話に花が咲き食事が遅くなることもあるが、本人の思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る物を自分で決められる方もあるが、季節にそぐわない物を着ている方には職員がそっと寄り添い相談にのるなどの支援をしている。開設時から地域の床屋さんに来てもらい孫のような従業員に気に入った髪形にってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも職員の手作りで野菜の千切りなどの準備や後片付けなど各々ができることをしてもらっている。流しそうめんや季節料理を献立に入れ楽しんで食べる工夫をし、職員も同じテーブルで食べる食事は雰囲気もよく、ほとんど残したことがない。	献立は利用者の希望を入れ職員皆で作っている。近所から差し入れの野菜と旬の食材を準備し、利用者も調理の下ごしらえを各々が出来ることを手伝い、3食とも職員の手作りで多彩な料理が出されている。事業所自慢の美味しい食事は職員も一緒に楽しく行われており、食べ残す方はいない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の嗜好や食事量、水分量を把握し、多種類の食材を使用するなどバランスを考えた献立にしている。また見た目でも美味しく感じられ、楽しく食事ができるように盛り付けも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしてもらっている。磨き方が不十分な方には声をかけたり、職員が介助をして支援している。義歯は洗って朝まで浸け置き、自歯の方は歯科で歯石を取りチェックしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に会った言葉遣いで声掛けをしたり、さりげなくトイレ誘導ができるように配慮している。また排泄パターンを把握し布パンツに移行できたり、汚染が少なくなっている方もある。	排泄記録による定期的なトイレ誘導でなく、寄り添うケアから訴えの表情を見逃すことなく、適時のトイレ誘導で不安を取り除き、少しでも自立に向けた排泄が出来るよう支援している。失禁が少なくなり、紙オムツから布パンツに移行できた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるように体操は毎日欠かさず行い、繊維質の多い食材は圧力鍋を使い食べやすくしている。また水分や乳製品などの摂取や食事量にも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後に入浴時間を設けており、希望の日時で入浴してもらっている。入浴剤や菖蒲やゆずで季節の風呂を楽しんだり、好きな歌を歌ったりしてゆっくり入浴できるようにしている。	希望があれば毎日の入浴が可能であるが、平均に週2~3回希望の時間帯で入浴している。入浴が嫌いな方にも無理強いないで入浴後のお楽しみをセットにしながら入ってもらっている。時には柚子湯、菖蒲湯で季節感を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくフロアで過ごしてもらい、夜間よく眠れるように支援している。夜間は特にゆったりと接するようにし、薬剤の使用が少なくなるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明は個別ファイルに綴じ常時見られるようにしている。症状の変化や薬の変更は連絡ノートやミーティングで確実に伝わるようにしている。薬は手渡しし、服薬後は空袋をもらい確実に服薬できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の様子や生活歴などから、家事の手伝いや書き物などの得意分野で各々が活躍できる場を作っている。役割を担うことで生き活きとされ、家族の喜びにもつながり気分転換や意欲の向上にもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事に出かけたり、季節の花見、菜園の世話や収穫に出て、ご近所の方とお話する事もある。数ある外出先の中でも誕生日会で行く回転すしは、食べる楽しみもあって利用者はいつも心待ちにしている。	風のない温かい日には外気浴を兼ね玄関先にテーブルを出しオープンカフェでのお茶会、ドライブを兼ねてサンシャインパークへ花見と公園での昼食、季節毎にコスモス、花しょうぶ、紫陽花等の花見、苑の畑で野菜づくり、お誕生会に回転寿司、市内のスーパーへ買い物、亀山大市、100円市商店街の散策等多彩な外出支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎年の「亀山大市」では少額のお金を渡し、各人で好きな物を買ってもらっている。職員は付き添いそっと見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等から誕生日などに小包や手紙が届くと、お礼や近況を知らせる手紙を書かれる方もある。希望時には家族等に電話をかけることもあり、職員がそれとなく付き添い見守っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が憩うフロアは建物の中央にあり、天窓からは自然な光が差し込んでいる。書道作品や四季の貼り絵、みんなで出かけた思い出の写真などを壁に貼り季節が感じられるようにしている。対面式の台所からは料理の音や匂いがして家庭的な雰囲気の中で過ごせるように心がけている。	全ての共用空間の掃除が行届き、きれいで清潔である。居間兼食堂は広く、天窓からの自然光で明るく開放的で心地よい。居間、廊下の随所に職員のアイデアで不用品(古新聞、古封筒、包み紙、トイレトペーパーの芯等)を使って季節にマッチした利用者の手作作品が飾られ、居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった場所で過ごすことが多いが、好きな時に好きな場所で過ごせるようにフロアの片隅にソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように、今まで使っていた物を持ってきてもらったり、写真や自作の作品を壁に貼ってもらっている。家族との写真や手紙を見ることで家族とのつながりが感じられるように工夫している。	各居室とも大変広く掃除が行届き、清潔できれいである。何でも好みの物が持ち込可能であり、テレビや使い慣れた家電、お好みの小物が持ち込まれている。多くの居室に家族と一緒に撮った写真、家族からの手紙等お好みの飾り付けがされ、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札、引き戸には好みの色紙で作った名札を貼り解りやすくしている。安全で快適に過ごせるようにいつも職員と話合っている。		